

シグマ研究委員会

昭和57年度第2回運営委員会議事録

日 時：昭和57年7月13日（火）13：30～17：30

場 所：原研東海研 研2-222号室

出席者：原田（委員長，原研）

梶山（東北大），関（雄）(MAPI)，中嶋（法大），山本（FBEC），
松浦，田中，五十嵐，菊池（康）(原研)

オブザーバ：大竹（富士），木村（京大炉），松延（住友原工），西村，
内藤，松本，浅見（原研）

配布資料：

1. 前回（57.6.4）議事録（案）
2. 旅費使用状況
3. Japanese List for NEANDC “U” Distributions
4. CINDA distribution list for Japan
5. Japanese List for INDC “L” and “U” Distributions
6. 核種生成量評価WG資料
7. 82研究会準備の相談
8. 諮問・調整委員会への委託事項（案）
9. 特殊目的核データ小委員会資料

議 事：

1. 前回議事録確認

資料1により確認を行った。

2. 事務局報告

- (1) 旅費使用状況

資料2により6月末までの旅費使用状況について報告があり，昨年と比べると使用の速度は約2カ月早く，WGによっては予定額を超えているとの説明があった。これに対してWGのメンバーの増員は慎重に行うこと，作業を能率よくやる必要がある等の指摘があった。

(2) 委員の追加発令

医学用原子核データWG，核種生成量評価WGの新設などに伴って委員20名の追加発令の手続をとったことが報告された。

3. 特殊目的核データに関するad-hoc小委員会報告

西村氏から，このad-hoc小委員会での審議の概要の説明とともに，現在行っている作業について資料9を用いて説明があった。

4. 配布リスト等の改訂

五十嵐氏から，NEANDC，INDC関係の日本の配布リスト及びCINDAの配布リストの改訂（資料3，4，5）を行ったことが報告された。

5. 核種生成量評価WGの活動方針

内藤氏から，このWGの作業計画の具体案について資料6を用いて説明があった。これに対して次のような質疑・コメント等があった。

- WGの目的は何か。実験データを集められる見込みはあるか。
- 解析にはJENDLを使うべきである。
- コード，核データのチェックをどうやるのか。
- 素性のわかっているライブラリーを使って欲しい等々。

6. 学会特別会合議題

NEACRP会合報告，大型炉燃焼ベンチマークテスト専門家会議報告，Antwerp会議報告，ANLでの捕獲断面積専門家会議報告などが挙げられた。これらを土台にして梶山氏が案を作り，学会企画委員会に提案することになった。

7. 研究会プログラム委員会

五十嵐氏から，村田氏（NAIG），関（泰）氏（原研）が研究会の世話人を引受けてくれたとの報告とともに，両氏と行った研究会準備の相談について（資料7）説明があった。次いでプログラム委員会（委員長：村田，副委員長：関（泰），委員：中嶋，梶山，関（雄），吉田（正），水本，事務局）の設置が提案され，了承された。なお，第1回のプログラム委員会は8月5日（木）に行うことにした。

8. 物理学会シンポジウムのアナウンス

原田氏から，10月1日の物理学会（北大）で行う核データのシンポジウムの概要について紹介があった。

9. 専門部会活動の提案

五十嵐氏から，運営委員会の会合毎に1つの専門部会の活動報告をしてもらう

ことにしたいとの提案があり、当日の議題に応じて専門部会に依頼することにした。

1 0. 諮問・調整委員会への委託事項

五十嵐氏から、資料8の委託事項(案)について説明があり、討議を行った。その骨子は(1)シグマ委が今後行うべき事項と体制、(2)アジア地域での国際協力であって、それに追加するものとして核データの測定を促進させる方策を採り挙げることにした。

1 1. JEFの phase II への対応

Joint Evaluated File の phase II の作業に対してどう対処すべきかについて議論を行った。そして次のような意見が出た。

- JENDL-3と JEF とは狙いが異なる。
- われわれとしては JENDL-3 の作業が中心であることをはっきり言った方がよい。
- 遠いので評価作業への直接参加はできないが、JENDL-3 の提供、JEF-1 のベンチマークテストの一部分担などの形で協力できる等々。

1 2. その他

岡本氏(IAEA/NDS) が近く原研へ来るが、何らかの話し合いの機会をつくりたいとのアナウンスがあった。

次回は9月3日(金) 13:30より原研本部で行う予定